

坂田医院旧診療所

坂田医院旧診療所は、妻沼の商店街にあります。その広い正面と設計細部は、1930 年代の洋風建築の特徴です。診療所は坂田康太郎が 1931 年に開業した産科・内科医院です。当時、妻沼聖天山歓喜院を囲む妻沼地域はかなりの田舎で、洋風建築は珍しいものでした。

この鉄筋コンクリート 1 階建て建物の屋根付きの入口には階段のアーチ道があり、広い待合室につながっています。正面はざらつきのあるセラミックタイルでできており、その特徴的な外観をさらに印象的なものにしています。診療所内には、長い廊下沿いに診療室、検査室、分娩室、手術室、X 線室、暗室と 10 の部屋が配置されています。ガラス製の注射筒やフラスコ、手術道具、診察台、X 線撮影装置、医療テキストなど、当時の設備や道具の多くが残されています。

当時の照明設備としては、装飾豊かなアール・デコ調のペンダント灯からミルクグラスグローブまで残されています。照明設備や家具は診療所に適した実用的なものでありながら、当時の設計の流行が反映されています。

内装は 1980 年代に診療所が閉鎖されるまでの長い年月をかけてほとんど変わっておらず、昭和時代（1926～1989 年）初期の先端医療技術とアール・デコ建築を象徴するものとして、町が保存してきました。坂田医院旧診療所は、当時起こっていた現代化を象徴するもので、有形文化財として登録されています。

建物は、年に数回、一般公開されています。